

家畜衛生情報

東部地域畜産経営技術推進指導協議会
670号
富山県東部家畜保健衛生所

西部地域畜産経営技術推進指導協議会
富山県西部家畜保健衛生所

2025.3.10

大盛況 和牛甲子園出品牛の販売会..... 1
豚熱研究の最前線 2
鳥インフルエンザ情報について..... 2
家畜保健衛生所フィールド研究ノート
～牛伝染性リンパ腫の伝播リスク分析と
清浄化に向けた取り組み～ 3
令和6年度家畜衛生技術検討会を開催... 4

セイフティミート推進会開催される ... 4
農業における「ビジネスと人権」 4
検査室レポート..... 5
トピックス【大脳皮質壊死症】 5
防疫情報..... 6
北陸三県和牛子牛市場開催される 6

大盛況 和牛甲子園出品牛の販売会



販売会の様子

県立中央農業高校（以下、中央農高）が、1月16～17日に東京都中央卸売市場食肉市場等で開催された「第8回和牛甲子園」に出場しました。出品した和牛は、和牛枝肉共励会でA5、B.M.S. No. 11と素晴らしい成績で、「とやま和牛酒粕育ち」として高値でせり落とされ、2月15日にJAあおばの農産物直売所で販売されました。

販売当日は、田中さん（3年生）、益山さん（2年生）、廣田さん（1年生）が直売所で来店客を出迎え、中央農高で育てた和牛の美味しさをPRしました。今回初めて対面販売を行った益山さんは「自分たちが毎日管理していた牛を実際に目の前でお客様が購入してくださる姿を見ることができて、大きな達成感を感じることが出来た。」と、廣田さんは「自分達が育てた牛のお肉の販売会に初参加し、本校和牛の魅力についてお客様に伝えることが出来て良かった。」と話してくれました。

中央農高は令和5年11月に「JGAP認証農場」を取得し、食品安全・家畜衛生の向上等に寄与するとともに、生徒が中心となって生産工程の見直し・改善を図り、この取り組みを後輩へと引き継いでいます。GAPを通じて、中央農高の更なる飛躍を期待しています。

（東部家保防疫課 田知主任）

豚熱研究の最前線

農林水産省「安全な農畜水産物安定供給のための包括的レギュラトリーサイエンス研究推進委託事業」のうち「CSFの新たな総合的防除技術の開発」最終年度公開シンポジウムが2月18日にwebで開催され、全国から600名を超える参加があり、豚熱の研究成果について全国7つの大学・研究機関の講演がありました。

○豚熱感染で減った「野生いのしし」の個体数は元に戻る

豚熱ウイルスが侵入した地域では、成雄いのししの観察頻度が低下することが報告されました。これは、野生いのししに豚熱ウイルスが拡がることで成雄いのししは死亡し、成雌とその子のみが生き残った結果と考察されました。しかし、豚熱感染により野生いのししの個体数が一時的に減少しても、免疫を獲得した個体から再び子どもが生まれるため、良好な生息環境がある限り個体数は元に戻るといふことでした。

○「野生いのしし」以外の野生鳥獣も豚熱ウイルスを持ち込む危険性

野生いのししが利用するヌタ場は、タヌキや野鳥など他の野生鳥獣も頻繁に利用しており、ヌタ場を介して病原体が拡散する可能性が指摘されました。さらに、死亡した野生いのししを食べるタヌキやテン、死亡いのししに体をこすりつけるハクビシンの映像も公開され、野生いのしし以外の野生鳥獣も豚熱ウイルスを農場に持ち込む危険性を再認識させられました。

○「野生いのしし」だけではなく、人が豚熱ウイルスを遠くに運ぶ

現在国内で流行している豚熱ウイルスは、2018年に岐阜県の野生いのししから検出されたウイルスが、感染いのししの移動等により全国に拡大したものと考えられていました。しかし、ウイルスの遺伝子を詳しく検査したところ、人為的な伝播を疑う大きなウイルスの移動があったことが判明しました。例えば、2022年に中国地方で初めて野生いのししで豚熱ウイルスが見つかったのは、それまで確認されていた近畿地方の近くではなく、複数の県を跨いだ先の山口県でした。この豚熱ウイルス遺伝子は紀伊半島のウイルスと最も近縁であったことから、野生いのししの移動で徐々に広がったのではなく、何らかの人の活動を介して遠方に運ばれた可能性が強く示唆されました。このような遠隔地へのウイルス移動事例が複数確認されており、改めて「人」や「車両」が病原体を運ぶ「=農場に持ち込む」危険性を認識し、対策していくことが重要です。

2025年に入ってから農場飼養豚で既に2事例の豚熱が発生しています。2月の記録的な大雪で農場周囲柵などの破損等もあるかもしれません。大雪被害の対応でたいへんお疲れかと思いますが、これから春を迎え野生鳥獣の動きも活発になる前に、改めて野生鳥獣対策の点検をお願いします。

(東部家保防疫課 先名係長)

鳥インフルエンザ情報について

今シーズンの家きんにおける高病原性鳥インフルエンザ (HPAI) の発生は、令和6年10月17日と最も早い時期に国内1例目が確認されて以降、令和7年2月28日までに14道県51事例が発生、約932万羽が殺処分の対象となっています。今シーズンの発生件数は過去最多の発生となった令和4年シーズンの76事例(2月末時点)と比較すると7割弱に相当します。特に1月は養鶏の集中地域における発生が相次ぎ、月間34事例648万羽のうち、愛知県(13事例187万羽)、千葉県(14事例323万羽)、岩手県(5事例123万羽)の3県だけで32事例633万羽と、1月としては発生件数、殺処分羽数共に過去最多となりました。一方、隣国の韓国では10月にHPAIが発生して以降、これまでに35事例、約155.3万羽が殺処分の対象になっているほか、欧州や米国等の海外でも依然としてHPAIの発生が各地で継続しています。

また、今シーズン序盤に農場で発生したHPAIウイルスを解析した結果、4種類の遺伝子型が検出されています。多様な遺伝子型が検出されたことから農場へのウイルス侵入リスクの高まりが懸念されています。HPAIの発生及びまん延を防ぐためには継続した防疫対策が必要です。特に以下の3点により、地域・農場内にHPAIウイルスが侵入する隙を作らない取組みが重要となります。「怪しい」、「もしかしたら」など異常を感じた場合は迷わず早期通報をお願いします。

- ☑ 消毒の徹底(ウイルスの侵入防止)
- ☑ 早期通報
- ☑ 点検、点検、再点検



ハクチョウ、カモを見る回数が徐々に減り、「ハクチョウの北帰行」が報道されるようになりました。HPAIの警戒シーズンは10～5月とされており、昨シーズンは千葉県で4月下旬に養鶏場で発生が確認されています。警戒が必要な期間が継続しますが、今後とも発生予防に努めていただくようお願いいたします。

(東部家保防疫課 古林獣医師)

家畜保健衛生所フィールド研究ノート

～牛伝染性リンパ腫の伝播リスク分析と清浄化に向けた取組み～

牛伝染性リンパ腫（EBL）の国内発生頭数は近年ますます増加傾向にあります。主な感染経路としては、アブやサシバエといった吸血昆虫、除角などの出血を伴う作業を要因とする水平伝播と胎内感染や産道感染、初乳給与に伴う母子伝播です。EBLの清浄化を目指すには、牛伝染性リンパ腫ウイルス（BLV）陽性牛の計画的な淘汰が有効な対策と考えられていますが、優良な繁殖雌牛の確保や安定した生乳生産を行う上で陽性牛の淘汰が困難な場合があります。そこで、県内のBLV伝播リスクを明らかにし、清浄化に向けた対策を検討しました。

I 伝播リスク要因の分析

伝播リスク要因の分析は、母子伝播、水平伝播及び外部導入の3項目について実施しました。

母子伝播のリスク調査

母子伝播の調査は、BLV抗体陽性の受卵牛由来のET産子34頭を用い、リアルタイムPCR法でBLV遺伝子検査を実施しました。この結果、調査した34頭のうち陽性牛は1頭で、母子伝播の発生率は3%でした。

水平伝播のリスク調査

水平伝播の調査は、タイストール牛舎である管内酪農場15戸で検証しました。BLV陽性率に基づいて、高度感染農場（陽性率50%）、中度感染農場（10% 陽性率<50%）、低度感染農場（陽性率<10%）に分類し、それぞれBLV陰性牛が2年間で何%新規感染したかを比較しました。

この結果、高度感染農場の陽転率は61.5%、中度感染農場は21.3%、低度感染農場は1.6%でした。

外部導入のリスク調査

外部導入のリスクは、令和5年4月から令和6年12月までに県外から導入された牛112頭について、ELISA法によりBLV抗体陽性率を調査しました。

その結果、BLV抗体陽性率は、肉用繁殖和牛で4頭中0頭（0%）、乳用の県外導入牛で42頭中11頭（26.2%）、乳用の県外預託牛で66頭中10頭（15.2%）、合計112頭中21頭（19.4%）でした。

- ① 母子伝播（胎内感染、産道感染、初乳給与）の伝播リスクは低い
- ② 水平伝播は農場の感染度が高い程、陽転率が高い
- ③ 酪農場では県外導入牛・県外預託牛を介して農場にBLVが侵入する危険性が高い

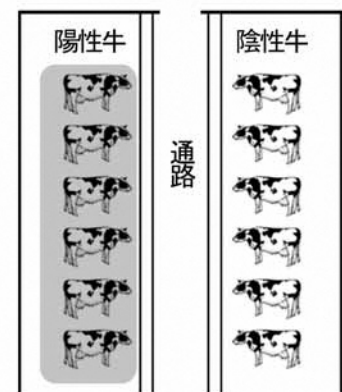


清浄化を目指すには水平伝播及び県外導入による伝播リスクを優先的に減らすことが重要

II EBL 清浄化に向けた取組み

EBLの清浄化を目指すA農場では、BLV陽性牛が優良な血統であったため、経営を考慮すると早急な淘汰が難しく、水平伝播により新たな陽性牛が確認されている状況でした。また、子牛は群飼のため、育成期にBLVに感染する危険性もありました。そこで、上記のリスク要因分析の結果とA農場が低度感染農場であることを考慮して、陽性牛の淘汰は行わず、以下の3点の対策を実施することとしました。

- ① 吸血昆虫対策として、陽性牛は牛舎の一部に固めて分離飼育
- ② 育成牛は遺伝子検査を実施し、陰性牛のみ繁殖牛として飼養
- ③ 分娩時の感染を防止するため、陽性牛が分娩する際は陰性牛との間を一マス空けるかコンパネ等で仕切る



対策①: 牛舎内での
明確な分離飼育

A農場では、上記の対策を徹底したことで水平伝播による伝播リスクが低減し、令和6年度の定期検査では陽転した経産牛が確認されませんでした。今後も対策を継続することで農場のBLV陽性率は減少し、将来的には清浄化を達成することが可能と考えられます。

今回、県内のBLV伝播リスクの調査から、A農場のような低度感染農場では、陽性牛の積極的な淘汰ができない場合でも、水平伝播及び外部導入牛による伝播リスクの低減を図ることで清浄化を目指すことが可能であると考えられました。清浄化に向けた対策は農場の状況に応じて個別に検討する必要がありますので、EBL清浄化に向けて検査等を希望される際は遠慮なく家畜保健衛生所までお問い合わせください。

（東部家保防疫課 田知主任）

令和6年度家畜衛生技術検討会を開催

2月28日と3月4日に、東部家保及び西部家保でそれぞれ家畜衛生技術検討会が開催されました。東部家保では、県関係機関、市町の担当者、関係団体等の方々が出席し、1月に猛威を振るった高病原性鳥インフルエンザや、国内への侵入が危惧されているアフリカ豚熱の防疫対応等について議論を行いました。特にアフリカ豚熱については、野生いのししで発生した場合に備えて、いのししの死体搜索や通行制限、防護柵の設置等の対策とそれに伴う問題点・課題について活発に討論されました。県では来年度以降もアフリカ豚熱の防疫演習を計画しており、アフリカ豚熱発生に備えた体制の構築を進めていく予定です。



東部家保での検討会の様子

これからの家畜伝染病の防疫対応には野生鳥獣対策の視点も求められており、各地域をよく知る市町村や関係機関との協力が今後ますます重要になってきます。関係者の皆様におかれましては、今後とも家畜伝染病の防疫対策へのご協力をよろしくお願いいたします。(東部家保環境課 宮本課長)

セイフティミート推進会開催される

2月28日、株式会社富山食肉総合センター研修室にて令和6年度セイフティミート推進会が開催されました。アドバイザーとしてJA全農ミートフーズ株式会社の新開稔先生を迎え、生産者、畜産・行政機関の関係者を交えながら、近年、EUを中心に衛生面に加えて食肉に求められているアニマルウェルフェアを議題に討論会を実施しました。

アニマルウェルフェアはEUでは畜産物の付加価値として位置づけられている一方で、日本のマーケットではそこまで伸びていないため新規に取り組むのはコスト的に難しく、既存の設備を工夫して活用していくことが現実的であるという意見や、家畜に苦痛を与えないような配慮がアニマルウェルフェアに繋がるという意見など、各出席者からは現在の取組み内容を交えた活発な意見交換がなされていました。(東部家保防疫課 宮澤副主幹)

農業における「ビジネスと人権」

一般社団法人Jミルクでは、持続可能な酪農乳業のため、労働者の安全と人権を確保できる酪農乳業を目指す取組みを推進しており、2月13日に「ビジネスと人権に関するオンライン研修会」が開催されました。

本研修が企画された背景として、企業活動がグローバル化している中で2011年に国連の人権理事会が「ビジネスと人権に関する指導原則」を定めたことが始まりにあります。欧米企業を中心に取引先企業に対しても人権尊重の取組みを求める動きがあることから、日本政府も2020年に『「ビジネスと人権」に関する行動計画』を公表、農林水産省では2024年に「食品企業向け人権尊重の取組のための手引き」を公表して、各省庁で日本企業による人権尊重の取組みに対する理解の深化と取組みの促進を図っています。

食品産業のサプライチェーンは、「原材料の生産・調達」～「製造・加工」～「流通・消費」という構成をしています。例えば牛乳加工メーカーが取引先から人権問題の解決を求められた場合、メーカーだけでなく生産段階である酪農家も含めたサプライチェーン全体で人権問題に対応していく時代になってきています。

酪農業界の人権課題の一例をあげると、労働環境に関するものが国内外で指摘されています。研究によると、酪農は年間休業日数の少なさに加え労働時間も長く(北海道の自給飼料生産酪農家:3,359時間/年、全職業平均1,720時間/年)、他業種に比較して労働負荷が高いといわれています。労働条件は労働基準法によってルールが定められていますが、酪農業においては労働時間規制や休憩・休日規制などいくつかの項目が適用除外されています。ビジネスと人権の考え方では、国内法の水準以上の国際労働基準に基づいた労務管理が求められ、若年層や外国人労働者等の人材確保の面からも、適切な労務管理の必要性が今後高まっていくと考えられています。研修会を通じて、今後徐々にではありますが酪農乳業界全体でビジネスと人権に取り組んでいく流れを感じました。

(東部家保環境課 宮本課長)

農林水産省HP「食品企業向け人権尊重の取組のための手引き」のサイト



検査室レポート

検査実施状況（令和6年6月26日～令和7年2月25日現在）

区 分	畜 種	診断名・検査名	件数	頭羽数	検体数
病性鑑定	乳用牛	牛クロストリジウム・パーフリンゲンス感染症	1	1	1
		出血性腸症候群	1	1	1
		細菌性もしくは真菌性乳房炎	119	503	1,105
		その他	190	221	235
	肉用牛	牛大腸菌症(牛コクシジウム病との混合感染含む)	5	5	5
		牛クロストリジウム・パーフリンゲンス感染症	3	3	3
		牛トロウイルス病と牛ロタウイルス病	2	2	2
		牛ロタウイルス病	1	3	3
		牛ロタウイルス病と牛大腸菌症	1	1	1
		破傷風(届出伝染病)	1	1	1
		牛パストツレラ症	2	2	2
		牛パストツレラ症と肝膿瘍	1	1	1
		牛パストツレラ症とヒストフィルス・ソムニ感染症	1	1	1
		牛コクシジウム病	1	1	1
		乳頭糞線虫症	2	2	2
		乳頭糞線虫症と牛コクシジウム病	1	1	1
		大脳皮質壊死症	2	2	2
		その他	147	175	180
	豚	豚胸膜肺炎	1	1	1
		豚トウルエペラ・ピオゲネス感染症	1	1	1
		豚レンサ球菌症	1	1	1
		豚増殖性腸炎と豚パストツレラ症と豚コクシジウム病と豚鞭虫症と豚肺虫症	1	1	1
		豚増殖性腸炎と豚鞭虫症と豚肺虫症	1	1	1
		大脳皮質壊死	1	1	1
		その他	12	44	48
	鶏	鶏クロストリジウム・パーフリンゲンス感染症と鶏コクシジウム病	2	5	5
		鶏脳脊髄炎と鶏コクシジウム病	1	1	1
		鶏コクシジウム病	1	1	1
		その他	9	1	190
	めん羊・山羊	消化管内線虫症	7	9	9
		肝コクシジウム病	1	1	1
		その他	34	68	81
一般検査	牛・豚・鶏・山羊		359	2,283	3,480
鳥インフルエンザ検査	鶏	分離・抗体検査	24	240	480
BSE 検査	牛	エライザ検査	5	5	5
TSE 検査	めん羊・山羊	ウェスタンブロットまたは免疫組織学的検査(動物衛生研究部門に依頼)	13	13	13
豚熱検査	野生いのしし	PCR 検査	34	1,231	1,231
合 計			989	4,834	7,098

【トピックス】大脳皮質壊死症

大脳皮質壊死症は水溶性ビタミン B1（チアミン）の欠乏によって起こる神経疾患で、牛、めん羊、山羊などでみられ、運動失調や起立不能、けいれんなどの神経症状を示します。通常、反芻動物では第一胃でチアミンが合成されるため、チアミン不足にはならないのですが、第一胃が未発達な若齢動物や、飼料の急変もしくは粗飼料不足などによる第一胃内環境の変化により発症すると言われていいます。治療にはチアミン製剤の投与が有効ですが、急性経過で死に至ることも多いため、良質な粗飼料の給与、適切な飼養管理により健全な第一胃機能を維持し、本症を予防することが重要です。

（東部家保検査課 山口主任）

防疫情報

全国の主な家畜伝染病の発生

豚熱（法定伝染病）

（3月4日現在）

事例	発生日	発生場所	経営形態	飼養頭数	備考
96	2月21日	群馬県前橋市	一貫	8,700頭	

県内の主な家畜伝染性疾病等の発生

病名	畜種	発生日	戸数	頭羽数	備考
牛パストレラ症	牛	2月1日	1	1	
牛大腸菌症と牛コクシジウム病	牛	2月12日	1	1	
牛コロナウイルス病	牛	2月26日	1	4	
豚丹毒（届出伝染病）	豚	1月30日	1	1	と畜場発見
		2月3日	1	1	
		2月20日	1	1	
豚レンサ球菌症	豚	2月9日	1	1	
豚胸膜肺炎	豚	2月19日	1	1	
山羊の消化管内線虫症	山羊	2月11日	2	2	

令和6年（2024年）シーズンの野鳥の鳥インフルエンザ発生状況（令和7年2月5日～3月4日）

事例	回収日	場所	検体の種類	種名	亜型
111	1/23	鹿児島県出水市	死亡野鳥	ナベヅル	H5N1
112	1/27	鹿児島県出水市	環境試料（水）	—	H5N1
113	2/3	鹿児島県出水市	死亡野鳥	ナベヅル	H5N1
114	2/14	北海道札幌市	死亡野鳥	ハシブトガラス	H5N1
115	2/10	鹿児島県出水市	環境試料（水）	—	H5N1
116	2/14	北海道根室市	死亡野鳥	ハシボソガラス	H5N1
117	2/16	鹿児島県出水市	死亡野鳥	ナベヅル	H5N1
118	2/17	鹿児島県出水市	死亡野鳥	マナヅル	H5N1
119	2/21	北海道札幌市	死亡野鳥	カラス類	H5

県内における野性のしし豚熱 PCR 陽性事例（令和7年2月6日～2月26日検査実施分）

	発見状態	発見又は捕獲日	発見又は捕獲場所	成長区分	性別
1	捕獲	2月11日	富山市八尾町下仁歩地内	成獣	雌
2	捕獲	2月11日	富山市八尾町下仁歩地内	成獣	雌
3	捕獲	2月11日	富山市八尾町中山地内	成獣	雌
4	捕獲	2月16日	富山市八尾町下仁歩地内	成獣	雄
5	捕獲	2月16日	富山市八尾町下仁歩地内	成獣	雄
6	捕獲	2月21日	富山市八尾町土玉生地内	成獣	雄

北陸三県和牛子牛市場開催される

2月27日、金沢市の北陸三県家畜市場において、令和6年度第6回の北陸三県和牛子牛市場が開催されました。今回は全体で去勢81頭、雌49頭の計130頭の取引が成立し、富山県からの出品牛は去勢19頭、雌8頭の計27頭の取引が成立しました。全体の取引頭数は、前回比マイナス10頭で8%の減少となりました。

平均価格は、去勢で576千円（12月市場563千円）、雌で483千円（同455千円）、全体では541千円（同520千円）でした。また、最高価格は去勢で709千円、雌が707千円でした。

次回の開催は令和7年4月24日（木）になります。

（東部家保防疫課 宮澤副主幹）

発行所 富山県東部家畜保健衛生所 https://www.pref.toyama.jp/cms_sec/1687/
〒939-3536 富山市水橋金尾新4-6 電話(076)479-1106 F A X (076)479-1140
編集者 宮本 剛志（富山県東部家畜保健衛生所）
○最新号は右のQRコードからいつでもご覧いただけます。

